

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2002-309089(P2002-309089A)

【公開日】平成14年10月23日(2002.10.23)

【出願番号】特願2001-352492(P2001-352492)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 83/05

B 3 2 B 27/00

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/5419

C 0 8 L 83/07

C 0 9 J 5/00

C 0 9 J 183/05

C 0 9 J 183/07

【F I】

C 0 8 L 83/05

B 3 2 B 27/00 1 0 1

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/5419

C 0 8 L 83/07

C 0 9 J 5/00

C 0 9 J 183/05

C 0 9 J 183/07

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月19日(2004.11.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の成分：

(A) 1種類以上のビス(トリアルコキシシリルアルキル)スクシネート、

(B) ビニル含有ポリジオルガノシロキサン、

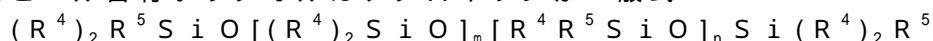
(C) 水素含有ポリシロキサン、及び

(D) 触媒量のヒドロシリル化触媒

を含んでなる室温加硫性接着剤配合物からなるシリコーン組成物。

【請求項2】

前記ビニル含有ポリジオルガノシロキサンが一般式

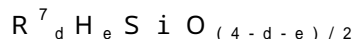


(式中、 $R^5$ はビニル基であり、 $R^4$ は炭素原子数約1～約8のアルキル基、フェニル基、炭素原子数約3～約10のフルオロアルキル基及びこれらの混合物からなる群から選択され、「m」+「n」は該ポリジオルガノシロキサン全体として25で約100～約100000センチポアズの粘度及び該ビニル含有ポリジオルガノシロキサンの約0.02～約2.0重量%のビニル含量を与えるに十分な値を有する。)を有しており、 $(R^6)_3SiO_{1/2}$ 単位と $SiO_{4/2}$ 単位を有するビニル含有シリコーン樹脂コポリマー(ただし、 $R^6$

はビニル基、又は脂肪族不飽和のない炭素原子数 6 以下の一価炭化水素基であり、 $(R^6)_3SiO_{1/2}$  単位と  $SiO_{4/2}$  単位との比は約 0.5 : 1 ~ 約 1.5 : 1 であり、この樹脂のビニル含量は該ビニル含有シロキサン樹脂コポリマーの約 1.5 ~ 約 3.5 重量%である。) を約 0 ~ 約 70 重量%含む、請求項 1 記載の組成物。

【請求項 3】

前記水素含有ポリシロキサンが

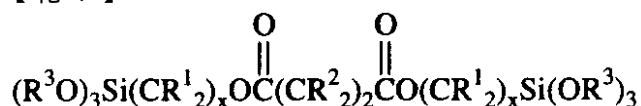


(ただし、 $R^7$  は水素、一価炭化水素基、又は脂肪族不飽和のない炭素原子数約 1 ~ 約 10 のハロゲン化一価炭化水素基であり、「d」は 0 ~ 約 3 の値を有し、「e」は約 1 ~ 約 3 の値を有し、「d」+「e」の和は約 1 ~ 約 3 の値を有する。) の平均単位式を有する、請求項 1 又は請求項 2 記載の組成物。

【請求項 4】

前記ビス(トリアルコキシシリルアルキル)スクシネートが式

【化 1】



(式中、各  $R^3$  は独立に炭素原子数約 1 ~ 約 20 のアルキル基を表し、 $R^1$  は水素を表し、 $R^2$  は水素又は炭素原子数約 1 ~ 約 20 のアルキル基を表し、「x」は約 3 ~ 約 8 である。) を有する、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項記載の組成物。

【請求項 5】

以下の成分：

(A) 組成物全体の約 0.1 ~ 約 5 重量% 存在する 1 種類以上のビス(トリアルコキシシリルアルキル)スクシネート、

(B) 組成物全体の約 10 ~ 約 50 重量% 存在するビニル含有ポリジオルガノシロキサン、

(C) 組成物全体の約 1 ~ 約 15 重量% の水素含有ポリシロキサン、

(D) 触媒量のヒドロシリル化触媒、

(E) 組成物全体の約 0 ~ 約 50 重量% の増量用充填材、及び

(F) 組成物全体の約 0 ~ 約 70 重量% の強化用充填材

を含んでなる室温加硫性接着剤配合物からなるシリコーン組成物。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項記載の組成物で処理した金属基材又はポリマー基材を含む物品。

【請求項 7】

シリコーン組成物と基材に凝集破壊性をもたらす方法であって、

(I) 下記成分：

(E) 1 種類以上のビス(トリアルコキシシリルアルキル)スクシネート、

(F) ビニル含有ポリジオルガノシロキサン、

(G) 水素含有ポリシロキサン、及び

(H) 触媒量のヒドロシリル化触媒

を含むシリコーン組成物を基材に塗工し、

(II) シリコーン組成物を硬化させる

ことを含んでなる方法。

【請求項 8】

シリコーン組成物とアルミニウム基材、フェノール樹脂基材又はエポキシ樹脂基材に凝集破壊性をもたらす方法であって、

(1) 下記成分：

(A) 組成物全体の約 0.1 ~ 約 5 重量% 存在するビス(トリメトキシシリルプロピル)スクシネート、

(B) 組成物全体の約 10 ～ 約 50 重量% 存在するビニル含有ポリジオルガノシロキサン、

(C) 組成物全体の約 1 ～ 約 15 重量% の水素含有ポリシロキサン、

(D) 触媒量のヒドロシリル化触媒、

(E) 組成物全体の約 0 ～ 約 50 重量% の増量用充填材、及び

(F) 組成物全体の約 0 ～ 約 70 重量% の強化用充填材

からなるシリコーン組成物を約 20 ～ 約 60 ミリメートルの厚さで基材に塗工し、

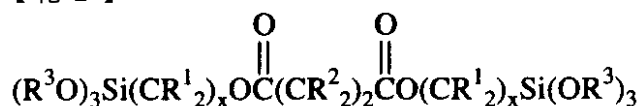
(2) 約 0.25 ～ 約 150 時間の時間にわたり約 25 ～ 約 150 の温度でシリコーン組成物を硬化させる

ことを含んでなる方法。

【請求項 9】

次式：

【化 2】

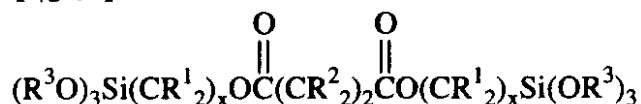


(式中、各  $R^3$  は独立に炭素原子数約 1 ～ 約 20 のアルキル基を表し、 $R^1$  は水素を表し、 $R^2$  は水素又は炭素原子数約 1 ～ 約 20 のアルキル基を表し、「x」は約 3 ～ 約 8 である。) からなるビス(トリアルコキシシリルアルキル)スクシネート。

【請求項 10】

次式：

【化 3】



からなり、シリコーン組成物中に存在するとアルミニウム基材、フェノール樹脂基材又はエポキシ樹脂基材との接着をもたらすビス(トリメトキシシリルプロピル)スクシネート。